

- ・研究仮説には、どんな意味や機能（研究の対象・場、研究の重点、ねらいめざす子ども像）があるのか。
 - ・研究仮説設定の手順・方法は、どうあればよいのか。
 - ・よい仮説の条件は何か。
 - ・研究先進校の研究仮説は、どうなっているか。 等
- 上記の事項をふまえ、次の事項についてまとめて協議資料を作成する。
- ・自校の研究主題を解決するには、具体的にどんな手だて（方策）が有効か。
 - ・仮説の検証は可能か。 等
- 協議資料をもとに、実践に向けての具体的な話し合いをし、全職員の共通理解の上に研究仮説を確定する。

④年間推進計画
研修組織を作成
するために必要
な資料を収集し
適切に活用する。

○年間推進計画を作成するために、次のような資料を収集する。
昨年度の反省、自校の教育計画、日課表、
仮説検証計画、学校の人的・物的等の諸条件、
講師招へい計画、予算執行計画、主題研究以
外の現職研修計画、個人研修計画、他校の研
修計画 等

- 上掲の資料をもとに、年間推進計画に盛り込む内容等を明確にし、学校の実情に即した実施可能な計画にするよう全職員で話し合い、年間推進計画を確定する。
- 研修組織を作成するために、次のような資料を収集する。
昨年度の反省、学校規模、個人の希望書、校務分掌組織、他校の研修組織、
企業等の組織づくりに関する参考文献 等
- 上掲の資料をもとに、研究主題到達のために可能なかぎり個人が生かされ、
協働して研修に取り組めるような研修組織をつくる。

□研修の実施段階
における資料
収集・活用のし
方を工夫する。

①授業研究を推
進計画に従って
効果的に進める
ために必要な資
料を収集し、適
切に活用する。

○この段階では、授業研究が中心になるので、
授業研究の課題を確認し、年間推進計画に従
い1回ごとの授業研究のねらい（テーマ）を
明確にして、ねらいに即した資料を収集し、
授業研究の効果を高める資料活用のし方を工
夫することが必要である。

1 事前研究
○授業仮説の設
定にあたって

○授業研究テーマにかかわる児童生徒の実態
調査、学習指導要領及び指導書、教科書及び
他の教材、先行研究・文献等の資料を準備し、

- ・児童生徒の学習上の問題点や傾向性など
をつかむ。
- ・学習指導要領、指導書、教材等の分析研
究をする。
- ・問題点の解決・改善の方策を検討する。

等を行い、授業仮説の決定に活用する。

○教材の分析研
究にあたって

○学習指導要領、指導書、教科書、その他の
教材、先行研究・文献等の資料を準備し、